

3 レタスビッグベイン病に対する有効薬剤の検索

ねらいと成果

レタスビッグベイン病の防除対策として、薬剤防除の可能性を模索するため、同病を媒介するオルピディウムブラシカの根内感染を阻止する薬剤を、生物検定により検索した。供試薬剤は30種類とした。その結果、30薬剤中22薬剤について何らかの感染阻害効果が認められ、その中ではチオファネートメチル水和剤及びベノミル水和剤の効果が高かった。また、両剤とも葉害は認められなかった。

内容

1 試験方法

(1) 処理方法

試験は農業技術センター内人工気象器内（18℃、連続照明）で行った。発病は場より採取した汚染土壌を風乾・砕土後、滅菌パーミキュライトと1：1の割合で混合し、検定土壌とした。90ml容カップに検定土壌を充填した後、所定濃度に希釈した供試薬剤を50mlかん注した。これにあらかじめ無病土で育

成したレタス幼苗（本葉1～2葉期）を移植し、人工気象器内で育苗した。

(2) 調査方法

発病調査は、移植6週間後にその有無を調査した。葉害は、随時肉眼により観察した。

2 結果

30薬剤中22薬剤に何らかの感染阻害効果が認められた。感染阻害効果の認められた22薬剤の中では、チオファネートメチル水和剤及びベノミル水和剤の効果が極めて高く、表に示すとおり病徴発現も認められなかった。また、両剤処理苗は地上部、地下部とも葉害は認められなかった。

今後の方針

葉害もなく、オルピディウムの感染阻害効果の高かったチオファネートメチル水和剤について農薬登録に向けた薬効薬害試験等を進めていく。

神頭 武嗣（農業技セ・病害虫防除部）

表 各種薬剤のレタスビッグベイン病に対する防除効果と葉害

供試薬剤	希釈倍数	発病の有無	葉害
トルコホスチル水和剤	1000	有	+
ホセチル水和剤	800	有	-
チオファネートメチル水和剤	1500	無	-
ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1500	無	-
ベノミル水和剤	2000	無	-
アゾキシストロビンフロアブル	2000	有	-
クレスキシムメチルフロアブル	2000	無	+++
メトミストロビン水和剤	1000	有	++
ジフェノコナゾール水和剤	3000	無	++
トリアジメホ水和剤	2000	無	+
トリフルミゾール水和剤	1000	無	++
トリホリン乳剤	1000	無	++
フェナリル水和剤	6000	有	+++
ホリオキシ水和剤	1000	有	-
スルフェン酸系水和剤	800	無	++
キャブタン水和剤	600	無	+
TPNフロアブル	1000	有	-
イミクタジソンアルベシ酸塩水和剤	1000	有	-
バリタマイシン液剤	800	有	++
ジアゾファミトフロアブル	500	有	--
塩基性硫酸銅	800	有	+
カスカマイシン・塩基性塩化銅	1000	有	+

※葉害は0（-）～4（++++）の5段階で調査、